

$$\Pr(\mathbf{f}|\mathbf{e}) = \sum_{\mathbf{a}} \Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{e}) \quad (3)$$

ここで、 $\mathbf{f} = f_1, f_2, \dots, f_j, \dots, f_m$ であり、 \mathbf{f} がある値（フランス単語（現言語の単語）列）に定まるとき、 m は同時に値が定まっている変数（つまり、定数）であるため、すなわち、

$$\Pr(\mathbf{f}|\mathbf{e}) = \sum_{\mathbf{a}} \Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{e}) = \sum_{\mathbf{a}} \Pr(\mathbf{f}, \mathbf{m}, \mathbf{a}|\mathbf{e})$$

と m を追加してもイコール関係は保たれる。

ベイズの定理

$$\Pr(\mathbf{A}, \mathbf{B}|\mathbf{C}) = \Pr(\mathbf{A}|\mathbf{B}, \mathbf{C})\Pr(\mathbf{B}|\mathbf{C})$$

を適用すると、 Σ 内の $\Pr(\mathbf{f}, \mathbf{m}, \mathbf{a}|\mathbf{e})$ の部分は以下のように書き換えられる。

$$\Pr(\mathbf{f}, \mathbf{m}, \mathbf{a}|\mathbf{e}) = \Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{m}, \mathbf{e})\Pr(\mathbf{m}|\mathbf{e}) \quad (3.1)$$

ここで、

$$\mathbf{f} = f_1, f_2, \dots, f_j, \dots, f_m$$

$$\mathbf{a} = a_1, a_2, \dots, a_j, \dots, a_m$$

より、 $\Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{m}, \mathbf{e})$ の \mathbf{f} と \mathbf{a} の部分を展開して書くと、

$$\begin{aligned} \Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{m}, \mathbf{e}) &= \Pr(f_1, f_2, \dots, f_j, \dots, f_m, a_1, a_2, \dots, a_j, \dots, a_m | m, e) \\ &= \Pr(f_1, a_1, f_2, a_2, \dots, f_j, a_j, \dots, f_m, a_m | m, e) \end{aligned}$$

さらに、 $X_j = f_j, a_j$ とおくと、

$$= \Pr(X_1, X_2, \dots, X_j, \dots, X_m | m, e)$$

これに Chain rule

$$\Pr(X_1, X_2, \dots, X_k, \dots, X_n) = \Pr(X_n | X_1^{n-1}) \Pr(X_{n-1} | X_1^{n-2}) \dots \Pr(X_2 | X_1) \Pr(X_1) = \prod_{k=1}^n \Pr(X_k | X_1^{k-1})$$

を適用すると、

$$= \prod_{j=1}^m \Pr(X_j | X_1^{j-1}, m, e)$$

X_j を f_j, a_j に戻すと、

$$= \prod_{j=1}^m \Pr(f_j, a_j | f_1^{j-1}, a_1^{j-1}, m, e)$$

さらにベイズの定理を使うと、

$$\begin{aligned} &= \prod_{j=1}^m \Pr(f_j | a_j, f_1^{j-1}, a_1^{j-1}, m, e) \Pr(a_j | f_1^{j-1}, a_1^{j-1}, m, e) \\ &= \prod_{j=1}^m \Pr(f_j | f_1^{j-1}, a_1^j, m, e) \Pr(a_j | f_1^{j-1}, a_1^{j-1}, m, e) \end{aligned}$$

(3.1)式へ上の式を戻してやれば（ついでに条件部の a と f の順番をさらっと入れ替えて、 $\Pr(m|\mathbf{e})$ もさらっと前に出してやれば）

$$\Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{e}) = \Pr(m|\mathbf{e}) \prod_{j=1}^m \Pr(a_j | a_1^{j-1}, f_1^{j-1}, m, \mathbf{e}) \Pr(f_j | a_1^j, f_1^{j-1}, m, \mathbf{e}) \quad (4)$$

が一般性を失うことなく求められた。

また、 \mathbf{a} や \mathbf{f} といった大まかな塊でなく、その中の a_j や f_j といった細かい部分は直接 m によらないとすれば、上式はさらに以下のように書き換えられる。

$$\Pr(\mathbf{f}, \mathbf{a}|\mathbf{e}) = \Pr(m|\mathbf{e}) \prod_{j=1}^m \Pr(a_j | a_1^{j-1}, f_1^{j-1}, \mathbf{e}) \Pr(f_j | a_1^j, f_1^{j-1}, \mathbf{e})$$

（コロナ社の「機械翻訳」の(4.6)式に対応）